

幼稚園保育に於ける時局的反省の問題

(三)

——講習筆記要領——

倉 橋 惣 三

目次

- 一、時局対策としての保育事業
- 二、時局に保育の内面の反省
- 三、國民精神總動員の三標語
- 四、盡忠報國心の教育
- 五、國家心の實感
- 六、幼稚園に於ける個人主義の注意

七、堅忍持久

盡忠報國、舉國一致を列べて、堅忍持久を云ふ標語も日本全體が今心がけて居る事でありませぬ。そこで、前からのお話と同じ論法に基きまして、我々のやつて居ります日々の保育が、殊にあの幼い子供に、人から見ましたならば柔くお手柔かな事をやつて居るを見へます我々の保育に於き

まして、この堅忍持久を云ふ事が、果してさう云ふ風に取入れられて居るであらうか。是が時局に於ける反省の一つの問題になると思ふのであります。殊に私の考へます處では、前の二つの事、この堅忍持久を云ふ事は、その値打ち、大切さに於きまして素より差別はありませぬ。然しその問題の性質、殊に教育を云ふ立場から眺めました時に、前の二つにこの堅忍持久の間には相當異つた特殊點が存在するかと思ふのであります。

盡忠報國を申します事の方は、是は日本人の血の中に流れて居りますものが、この時局に於て特に高められて來る言つたやうな性質のものであります。忠を云ふ事を持つて居ない國民性に向つて今更忠を云ふ事を新に作り出さうとするやうな性質のものではないのであります。平生は太平の有難さにそれ程その感じを引締め集中して居ないかも知れませぬが、是は子供が親に甘へて居るやうな和かさ

して宥されてよいかと思ひますが、それが斯う云ふ場合に
 なります。特にその點に集中致しまして、日頃持つて居
 ります日本人の性格根本の忠が、レベルが高くなりまして、
 インテンシティーが強くなりまして、報國の事實になつて來
 るのであります。

舉國一致云ふ事の方は、それに比べます。日頃の性
 格内に於ける條件が、少しそれよりは足りないと言はれる
 事もあります。日本人の一つの弱點として、さうも個人主
 義的である。本當の舉國一致の必要は誰も知つて居ります
 が、性格それ自身がさう云ふやうになつて居るであらうか、
 云ふ事に就て憂ふる人は、甚だその點が足りないを憂へ
 て居るのであります。殊に今日のやうな斯う云ふ時局の眼
 で見ます。目に餘る個人主義が我れ人の性格の中に心付
 いて來るのであります。是は事によりましたならば、こ
 の時局を元として敲直さなければならぬ事であるかも知れ
 ませぬ。然し乍らそれにしまして、日本人は日本の國柄
 だ、あの皇室中心の一體云ふ特殊性に基きまして、多少
 の個人主義的我儘や甘ったれや、駄々を捏ねたりする事は
 あるに致しても、いざ云ふなれば舉國一致になるので、
 つまり日頃から持つて居ないものでは決してないのであり
 ます。その意味に於きまして前の二つは時局に於て特に新
 しく作り出す云ふよりは持つて居るものを一層の強さに

まで強調して來れば宜い云ふ譯合ひのものであります。

是に比べて堅忍持久云ふ問題に於きましては甚だしく
 異つて居ると思ひます。日本人の性格の中で、誰が認めま
 しても一大缺陷は堅忍持久性の缺如して居る事ださうであ
 ります。堅忍持久はこの長期抗戰の我が國の今の事實に對
 しまして最も缺くべからざる事として勵まされて居るので
 ありますが、若し日本人の性格に是が充分に日頃豫め無い
 もののすれば……無い云ふのは言葉が過ぎるか知れませ
 ぬが……弱いものゝすればその弱いものが、特に堅忍持久
 の力みましても、それ丈けの本當の堅忍持久が期待し得る
 か云ふやうな、多少突込み過ぎた心持も其處に出て來る
 と思ひます。丁度腦の弱い人がこゝでは一生懸命やらなけ
 ればならぬ云ふので鉢巻をした。其鉢巻をした爲に後で
 頭痛がする云ふのと同じであらうと思ふのであります。

堅忍持久。その堅い氣持で引締めて來る血は腦に上つ
 て却つて性格が崩れてしまふ云ふやうな、甚だ極端な言
 ひ方ではありますが、さう云ふ事もないとは言へませぬ。『螻
 螂の斧』云ふ言葉があります。あの弱々しい螻螂が生意氣
 に強いものに打つかつて居る云ふ言葉ですが、あの螻螂
 はそんなに草臥れて居るだらう。後でさぞかし按摩でも呼
 んで居るだらうと思ふ。(笑聲)さうすみ、蜻蛉が力んだ
 ら外の力が加へられずしてさうすみ、自身の力ではらうに

崩れてしまふかも知れない。『堅忍持久ならざるべからず』
ご自ら己を激勵しても、さううまく行くものではありません。
ぬ。要するに我々の性格それ自身の問題だ。云ふ事になり
ます。心がけの問題よりも性格それ自身の根本問題、其處
で性格それ自身の根本問題である。云ふ時にこそ、それが
最も眞實に教育の問題になつて来る。日本人を忠義にする
云ふやうな事は何も教育のテクニクに待つものではない。
い言ひたいのであります。教育者が始めて日本人を忠義
な者にする。云ふやうなものではない。けれ共キヤ
ラクターそのものを堅忍持久の持前にする、性格それ自身
を作つて行く。云ふ處に於て、問題が特に私達に委託され、
委任せられた問題になつて来る。我々がこの問題を引受け
ない限り、誰が宣傳致しましても離子立てまして、本當
の堅忍持久は出来ない。言ひたい位であります。その堅忍
持久。云ふ性格を、果して今日の保育は充分に養ひつゝあ
るか。さうか。云ふのであります。

或る方は、それはもう非常にやつて居る。殊にこの事變
が始つて以來、特にその點に力點を置いて、今迄は生やさ
しい名前を付けて居つた、なでしこ幼稚園、もゝいる幼稚
園……そんなのではないでせうが……(笑聲)優美幼稚園、柔
和幼稚園。云ふのをやめて、堅忍幼稚園、持久幼稚園、鐵
屑幼稚園、さう云ふ色々堅い事をやつて居る。(笑聲續く)

さうして毎朝子供が来る。今迄は最もにこやかに、柔和幼
稚園らしく迎へて居たけれ共、事變始つて以來、堅忍持久
顔をして子供を迎へる。其處で子供はキリッとして非常に
堅忍持久だ。時には子供が来て餘程後から先生が来る。そ
の間靜に辛抱させて、その稽古から始める。お晝御飯等は
非常に我慢させる。殊に女の子には政岡の忠話に做つてお
ひるを空腹ならしめ、さうして戦地の實狀に照して『そんな
事で閉口垂れるか』云ふやうな事を仰しやる。(笑聲)斯
う云ふ方もあるかも知れませぬ。實に恐るべき、又敬意を
表すべきことであります。(笑聲)

處でさう云ふやり方をするお心持は充分察するのであり
ますが、若しもこの事變がもつて緊張度を加へて來ま
したら、——日本の事で云ふよりも支那の幼稚園は多分そ
んなのがあるだらうと思ふのであります。事變以來支那の
幼稚園の人達に充分の同情……同情。云ふのもおかしいの
ですが……色々お察して居ります。さぞかし常の保育が
その通り出来ないであらう苦心ぶりが、こんなに保母の心
を苦しめて居るだらうか。云ふ事に就て察して居ります。
けれ共我が國に於きましてさう云ふ事はありませぬ。いつ
までもそんなことはありませぬ。其處で、目的としてはこん
なに強力なる問題でありますけれ共、幼児の方へそれを持
つて行く行き方として平生と別段あの保育の優しさを變へ

る必要はないのであります。その問題に就て實際に注意すべき要點を幾つか拾ひ上げて行つた方が早いと思ひますが、先づ第一には、あの保育の常の心得として、皆さんが始終心配しておいでになります神経系統の擁護の問題、幼児の神経系統に關する細い御注意、是が根本であります。若しも神経系統の細かに考慮する事なく、唯ごうなるべきだご云ふ事でその子供に押付けて行きましたならば、是は所謂子供を破壊してしまひます。堅忍持久は性格でありますから、みんながその人ごして堅忍持久性を増してくれる事が願はしいのであります。二年の間に誰も彼も同じ處まで持つて行けるかごうか、是は問題であります。教育者ご云ふものは目的に於て萬人に要求し、教育の實際に於て一人一人に充分の差別を許す。是が實際教育者の心遣ひであります。其處で若し神経系統に於て充分強くない子供がありましたならば「お前のやうな奴は時局幼児ではない、そんな事でごうする」ご、色々昔の例等を引きまして、あの昔の偉い誰さんは赤ん坊を生む時に井戸端で水垢離をしたごか、赤ん坊の時から坐禪をして居たごか、色々話を持つて來て言つて聽かしても、その子は神経が強い子だからそれが適當なのです。皆さんの處に來る現在の子供は、この問題をこんなに心配しなければならぬ程その性格に於て弱いご云ふのは何處かに神経の弱さがあるご云ふ事を元に

して居るのであります。この神経の弱さを養ふのに號令では出來ませぬ。『お前が悪いのではない、神経が悪い、神経の野郎』(笑聲)。さう云ふ子供には直くある事ですが、晝間の内は非常にがつちり張り切つて居りますが、夜になるご精神病の現象を現はすかも知れない。夜中に目を覺まして泣き出す夜驚症。斯うした神経の弱い者には神経そのものに就て擁護して行く……甚だ初めの言ひ出しご比べて非常に力の弱いやうな、意氣地のない話になりますが、……幼児の場合にはそれが大事なのであります。二年間、三年間御厄介になる事によりまして、模範的堅忍持久の英雄になりませぬでも、『お蔭で神経の丈夫な子供になりました』ご云ふ是が根本であります。『續其處でごうしたらば神経の問題に就てその目的を達し得るかご云ふ事があります。是は必ずしもこの時局の反省ご云ふ事でなく、不斷の保育の根本問題としてお互ひ常に研究して居る事でありますが、生理的に言へば多分二つの事だらうご思ひます。一つには神経を養つて行きます物質的榮養の問題が大事なんだらうご思ひます。又神経の緊張から來る疲勞を然るべく恢復して行く休息、殊に睡眠の問題。是が大事な事だらうご思ひます。明日から藤本講師の兒童榮養に關するお話がある。殊に私は實際的にご云ふ事で先生にお願ひして、先生もその意味でお話がある譯でありま

す。私達素人が云ふやうに神經的效果の多いお菜なんでものがどんなにあるものであるか、私は昔からこんな事を聽いて居ります。大根とか人蔘を始終食べて居れば背が高くなる。蕪ばかり食べて居るご背が低くなる。講師自身は蕪を食べたご云ふやうなお話を聴きますが、(笑聲)そんな簡単な論法で、根を食べさせれば根氣が強くなる、お母さんは髪の毛のよくなるやう葉の方の柔かな處を食べて、我が子には根氣を良くする爲に根を食べさせる。皆さんが海草を召上つて頭の髪を黒々ご御注意になるやうに、神經養食があるものか、藤本先生にお聴き致しまして、太らなくごも宜いから神經の根本を養ふ爲の榮養をお尋ねになる方が宜いご思ひます。私はそんな事は一寸も無知、知らないであります。今日の科學は身體の色々な部分に養ひごなるものを分類してあるやうであります。それが教へられたならば家庭に充分注意したいご思ふのであります。然し特有なる食物がないご致しましても榮養全體が：：神經だつて血液の補充なしに強健になり得るものではないご思ひますから：：身體全體の健康ご云ふ事を神經系統の問題に歸著せしめて始終考へて居る事は大事であるご思ひます。殊に私はこの事變が始まりましたから、平生でもさうであります。殊に色々の處で家庭の人ご話を致します時に、『時局が大變である、大人は忙しい、國の爲に働かなければ

ならぬが、子供丈は一層早く寝かせませう』ご云ふ事を奨めて居ります。さうか皆さんのお力に依りまして少くごも皆さんの處に子供を託して居る子供の親達は子供の睡眠が：：神經のご云ふよりも：：この堅忍持久性の根本にさう役に立つか、決して私は子供の時よく寝かしたからさ言つて、それが第二の天性になつてしまつて大きくなつても『私は始終睡い』ご云ふやうな事は起らぬご思ひます。(笑聲)。

私は朝の良い二時間を載いて居りますからお見かけする處、お寢みになつて居る方はない、けれ共、當節はなか／＼寢方が上手になりました。目は開いて勘所々々で領きながらちやんご居睡りして居る。私共もうつかり騙されてはならぬご思ふのであります。然し若しお寢みになる方があれば、殊に私の後に二時間づゝ續きます清水、菊池の兩講師は觀察の大家でありますから、こゝからぢゞ觀察するでせう。さうしてちやんご私に御報告があります。この時間、何パーセントの睡眠率であつたご御報告になります。(笑聲)然し是は色々御用もごさいませう、色々ご譯もごさいませう。昨夜寢不足の爲に講義中僅に微睡むご云ふやうな事もございませう。(笑聲)けれ共、電車の中で居睡りする事が外國人の眼につく日本人の根氣の弱さの表徴ださうであります。私等は電車は寢る處位に考へて居る。變な奴の顔が前にある時は寢て居るのが一番宜いのです。講堂で寢る

ミ云ふ事になつたならば、若し神經の方の専門家が居たらば早速に處方箋を書くだらうと思ひます。(笑聲)是は睡眠ミ云ふ問題を本當に正しく取扱ふ訓練が出来て居ないからだと思ふのであります。ミ云ふミ皆さんに申上げて居るやうであります、まア幼兒の話であります。其處でこの榮養ミか睡眠ミ云ふことは何んでもない事ではありますが、ミうも時局ミ云ふ上から固められてしまふ傾きがあるやうです。譬へば堅忍持久だからミ云ふので子供を夜遅くまで起して置くミ云ふ飛んでもない誤謬が起るかも知りませぬから、この決りきつた話を先にミつくり申上げて置きたい。

それから段々書間の話になりまして、幼稚園の中の實際の話になりまして、この一體、堅忍持久の心理的意義は何んであらうかミ云ふミ、要するに意志の問題であります。意志の問題ミ云ふ中に色々分れますが、その一つは意志の繼續性の問題であります。所謂意志活動の繼續性の問題、普通根氣ミ云ふのも所謂其處のやうであります。根は植物に對しまして繼續の任務を先づ執つて居ります。榮養も入れて居りませうが先づ繼續、其處でその繼續性を養ふミ云ふ爲には、……こゝらが保育の實に微妙な處でありまして：繼續性を養ふ爲に保育時數を延ばすミか、或は極めて簡單、單純な繼續練習、繼續ミッこ、一緒にみんなの繼續を練習させる。斯う云ふ事が屢々行はれますが、それはまア

言つてみればこつちの方の氣が濟む話でありまして、子供の方にはそれ程効果はないミ思ふのであります。繼續を繼續ミして抽象的に練習する事は古い心理學に於ては相當やつた事でありますが、青年期か何かになりますれば自らの意志を、意志以上の自我を統制して行かうミ云ふ場合には、例へば昨日は何時間坐り續けたが今日はそれより何時間餘計坐る。今迄は針の頭を十分見えて居るミ目がくら／＼したが今日からは二十分に延ばすミか、自我の意志を統制して行く事の出来ます成年には練習の効力はありますけれ共、其處まで發達して居りませぬ幼兒期に於ては傍からミの位續くだらうかミ云ふ外からの時間、空虚なる繼續ミ云ふ事になるのであります。其處で何か實際の生活の中でソッミ續けるのであります。實際の生活の中で續けるミすれば、個人々々の生活を周到に注意しながら何んミか上手に繼續をつないで行くのであります。一寸氣を付けて御覽になれば、あの子がもう止めさうにして居る『一寸、一寸、一寸』を斯うしたら宜いでせう』ミ繼續しなければならぬやうに仕向ければ宜いのであります。繼續の爲の繼續ミ云ふ事は形式教育のよく言ふ事ではありますが、そんな事をしなくとも、それ自身の眞實に觸れて行つて『面白いネ、もう一寸こゝを斯うしたら』ミ言つたらば自ら繼續するであります。繼續する内容の空虚なる繼續ではなく、生活

の繼續が出来るのであります。それを多くの時間繼續させるに云ふ事に限りませぬで、さう云ふ注意をしたいと思ふのであります。

中には「皆さん、今迄とは異つて繼續しなければならぬ長期抗戦の世である」といつては、長期抗戦の卵のやうな形で繼續ごっこをやる。『私は一寸繼續時間の濟む頃やつて來るからそれまでやれるね』と言つて先生は何處かに行つてしまふ。(笑聲)或は椅子に腰かけて繼續、生あくびを噛みころして、まだくゝッ、なんて事を言つて居るやうなやり方では、是は出来ませぬ。本當に生活の實際に即してそれを引伸すのであります。さう云ふ意味合ひから仕事それ自身で繼續させて行く、心理的問題に云ふよりは、事實としては仕事の問題になつて來ると思ふのであります。仕事の繼續、是が別段幼児根氣養成法に云ふ特別な秘訣にはなりませぬが、それを先生の方から根氣よくそれを繰返して行かせれば其處に行くと思ふのであります。

今回の講習には觀察が非常に重くその時間を取つて居りますが、その觀察は保育の目的から申しますと、講師から色々お話されるでせうが多方面な價值を持つて居ります。然も私の申して居るやうな點へ結び付けて來るにすれば、……根氣養成の爲に觀察をさせるに云ふのはありませぬが……子供がもう興味がなくなつて切らう切らうとする時

に、先生自身がそれに向つてより永き興味を持つていらつしやる、その興味が子供が引摺られてより永き繼續をするに云ふやうな觀察は出來ると思ひます。お話の場合にちつと坐らして置いてお話するに云ふ意味に於て繼續するのは違ひまして子供としての生活の繼續、保育項目のされの中に於てもその問題が特に考慮されるべきと思ひますが、恐らく子供が生活を内容づけて行く問題、即ち製作に手技を觀察に於て特にこの問題が考へられて居るのではないかと思ひます。自由遊びの場合は、氣の散る子供ご一つの事を永くする子供はつきり判る場合があります。而して自由遊びは最も活動的の生活であります。その自由遊びの中で厭いとつぽさを一定の續き方にして行くのは良い事であります。良い事でありまして大いに是は考慮され實行さるべきであります。自由遊びの場合は創作でありまして、自分の中から表現して行くのでありまして、觀察の場合は其處に物があるのである。手技の方は其處でこなさなければならぬ材料があるのでありまして、その意味に於て自由遊びは意志繼續性の特質の主義を觀察を持つて居るものと言へると思ふのであります。

意志の問題であるに云ふ事の第二は、是は甚だまづい言葉でありまして、殊に今回の講義にしましては、時局的反省に云ふ意味で先づ使つて置いて、又こゝに斯う云ふ言葉

を持つて来るのは不適當であり大袈裟過ぎるかも知れませぬが、意志は繼續するものであります。繼續のないものは意志ではない。小石である。砂である。(笑聲)處でその意志は唯機械的に續いて居るに云ふのみで、向ふに繼續して行くに云ふ丈けのものでなく、意志は絶へず出發點に後返りしてはまた進み、後返りしてはまた進んで行くものがあります。意志は矢印のやうに直線に向ふへ唯進んで行くものではありません。初めの心、初めの動機、初めに持つた目的、これを何時でも離さないでそれに返つては進み、返つては進みして廻つて行く、私は物理の先生から水を熱する時に始終斯う何さか云ふ運動が起るに聽いて居ります。さうして循環して樂罐までも熱くなるに云ふ話であります。人間の意志活動も始終自分の初めに返つて來て其處からまた行くのであります。其處でその初めの處に返つて來て行くに云ふ事は其處に色々の問題が発生して參りますが、若しも初めの出發點を忘れてしまつて、すうッさやつて居るならば是は意志活動ではなく、機械的の活動であります。然し餘りに初めの目的に立ち歸る事が多過ぎて、甚だしきは其處に停滯する事まで起つて來ましたら、意志の前進性がなくなりまして、是は所謂停滯の生活になつてしまひませう。けれ共本當の生活がうまく運んだとするならば人間の意志力を……或る限度がありますその意志力を

……始終元に歸しては、今自分のやつて居る事が初めの自分の考に違つて居ない、其處に自分の初めの考を實現しつゝあるに云ふ事に就て満足が感ぜられるのであります。その満足を意志的満足に申しますが、その意志的満足を更に次の活動を促すのであります。私はさう云ふ經驗が定に乏しいのであります。金を溜める人は何か一日働いて歸つて來てから金を見るさうであります。さうして或る満足を感じさうであります。其處で明日も早く起きて稼ぎに行く勇氣が出るのださうであります。何處かへすうッさ金が流れて行つてしまつたのではもう續かぬさうであります。その初めに歸つては勢ひづけられて行くに云ふ循環原理、是が正しく行はれて行く性格的習慣を養つて置く事が必要に思ふ。中には自分のやつて居る事を自分の初め考へた元に返すそれ丈けの頭の把住力が弱い爲に、行當りばつたり、氣まぐれ、それで一寸も不満足を感じない人がある。元氣であります。勇まし氣であります。けれ共あの頭の悪い人話して居ります……こつちが頭の良い人のやうであります……山の中からぼッさ出て來たやうな人話して居ります……話が何の話をして居るのだに云ふ元の處を忘れてしまつて、恐るべき天來の聲は其處に交りますけれ共、全體に譯の判らない、奔放自在さ申しますか、さう云ふものになつてしまひます。是は頭の問題であります

すが、生活行動の上に於ても矢張り迷ひの中に行く、セルフコントロール、自己統制のない迷ひの中に行く、斯う云ふ事は幼児の場合に於て、さつちか言へばさう云ふ傾向が多いのでありまして、私達は餘程其處の處を氣を付けて行きたいと思ひます。又反對に元の處には餘り固著して少しも進展しない人があります。譬へば私なんかその一例かも知れませぬ、何か言ふと、今回の講習會に就ては斯う云ふ事をお話しようと思つて、斯うするのである、斯うするのであると云ふ事はかり力みまして其處から自在に發展しない。是は愚痴ッぼい人が矢張りさうであります。一つ處をぐるぐる廻つて居る。自己の初めの意圖を中心にしてぐるぐる廻つて居る。何時間してもぐるぐる廻つて居る。實に、實に、その次に又實に實に云ふ丈けで、唯それ丈けであります。(笑聲)さうなるは先刻の無暗に飛んで行くのと反對であります。若し子供が自分でやり出した事と、全く異つた方に飛んで行つてしまつて、それで平氣で居る場合に於きましては、勿論大人の場合のやうにそこらの點を嚴密に要求する事は無理でありますが、今はさう云ふ傾向を子供に要求するのではなくて、養ひつゝあるのでありますから、要求は非常に軽く要求しますが、養はうとする事に就ては機を逸せず着々その方向へ我々の工夫をこらして行かなければならぬと思ふのであります。

私がよく申します或る目的を立て、誘導して行く場合、子供は先生の處へ來まして『先生、この四五日何をして居るのか知らなかつた、その時その時の興味で色々な事をして來たが、出來上つて來たら、是こそ我れ等の初めの志であつた。寔に嬉しうございました』と云ふ事にはなりませんまいが、先生の方にちやんぱんに歸つて來ると云ふ何物かありますならば一々それを子供に『ねえ……』と言つて説明する事はしないとしても效力があると思ふのであります。

私は保育に於て、その日暮し保育を嫌ひます。今日の稽古は済みました。濟んちやつた濟んちやつた。明日はまた別の世で、さうなる事が判らない。と言つたやうな日本橋の橋の袂で木遣と一緒にやつて行く江戸前保育と言つたやうな、(笑聲)それはそんなに子供に要求出來ない、と云ふ自然派の方から出た事でありませうが、何んか出來得べくんば先生の方は其處に考があつて内容實質に於て明日に繼續の出來る保育。よく私は色々な處でやつて居られるのを見ますが……本年は休みを少し延ばして保育して居る處が多いのでありまして、文部省もこの意味で七月より八月に講習した方が宜からうと初め考へたのでありますが、色々な都合もあり譯もありまして例年の通りに致しましたが、……平生は何日で休みになるのだが、あゝ何日保育を延ばすさか、お休み迄には保育が幾日残つて居るさか、正直な

先生は子供に斯う言つていらつしやる「もう保育も残り少なくなりました。もう幾日しかありませんね。しつかりやりませうね。暑いと言つてもあさもう幾日、茲に書いて置きませう。一日づゝ減つて行く楽しさ」笑聲是は先生としては正直な楽しさでありませう。けれ共、子供をして残る五日、七日、是は繼續性のある五日、七日でなければならぬ。スマツクを御馳走になつて居るやうな段々減つて行く減り保育ではないのであります。殊に期間の切れて居る時にまアく、是で宜いのだ云ふ繼續でなく、元に返つて繼續する。元に返す事に依つて楽しい自己の生活的楽しさ、斯う云ふ方針で有ゆる機會にその子その子にさう云ふ風に、譬へば子供が物を造つて居りましたならば「宜かつたねエ、あんたは初めこんな事を言つて居た。斯うしようと言つて居たが宜かつたねエ」宜かつたねエ云ふ楽しさ、自介の志を遂げた云ふ少し大袈裟ですが、人生は隣間々々に志を遂げつゝあるを申しますが、小刻みに志を遂げて居るのであります。それをちよつちよ子子供に味はして行く、さう云ふ處にあるのではないかと思ひます。

まア堅忍持久で續けてやりたいと思ひますが、神經を考慮して一寸こゝで休みます。

唯今考へました二つの事は、要求としてはつい強くなり

過ぎますもので、是を強く要求するのではなくて、そちらへ適當に機會ある毎に向けて行く教育をしたい。斯う云ふ意味で申したのであります。従つて多分幼稚園全體が一緒に揃つてさうなる云ふやうなつきりした形には現はれない事だらうと思ひます。不斷の通りの保育の中で皆さんのお心遣ひがさう云ふ風に加へられて行くに斯う云ふ形になるものだと思ひます。その次に、然し乍ら堅忍持久の性格を養ひますに就ては、是は矢張り性格養成の根本の原則に従ひまして習慣云ふ事に依るべきものであります。その習慣云ふ事は普通申します意味に於ては、この習慣をこの事の爲につける。この善良なる習慣をこの事の爲に養ふ。斯う云ふ習慣のその一つ一つの内容價值に就て普通、教育の方で習慣が尊重されて居りますが、心理的に申しますならば或る事に就て習慣をつけられたものは、その習慣の内容に於て教育された云ふ事の外に、全體にその習慣づけられる云ふその形式的な生活効果云ふものがあつてあります。其處で堅忍持久云ふ大きな性格を養ひますに就て、是を全體的に幼稚園の中で堅忍持久性を直接にやる事は難しいかも知れない、何かその習慣に縁のあるそつちへ擴つて行くであらう幼稚園として出来得べき或る習慣を養ふ、斯う云ふ事は一つの方法になり得ると思ふのであります。この習慣として私は斯う云ふ事を考へて宜

いのではないかと思ふ。幼稚園に於て：：殊に私共が常に是が本當の幼稚園の形だを考へて居りますものは：：相當に自由な形態を持つて居るものであります。然しその中で何か一定性か恒常性か云ふ言葉で現はされませうなもの生活を生活の中に入れて行く事が宜いのではないか云ふ點であります。

餘り小さな事にまで細い決りをつけて行く云ふ事は、幼児の潑刺たる生活活動にこつて必ずしも宜い事ではありませぬ。然し乍ら何處か或る點に於て、然も幼児にそんなに無理のない事で、ごの子にも共通せられ得るものであつて、それがそんなに道徳價值を持たないごしましても、さうやつて一定的、恒久的、コンスタントに生活出来るものが一つなり二つなり與へられる事が必要だと思ふのであります。

その一定云ふ事に就ては、譬へば小學校の場合に於きましては朝一定の時間にきちんと登校する。あれは何んでもない事のやうに考へて居りますが、學校生活の間にキャラクターの一定性を養ふ云ふ上に非常に効果を持つて居るのであります。遅れて来て何故悪い云ふ理窟は別問題として、遅れるその理由のある事も判つて居りますが、その子供は何時に學校に著く云ふ事を習慣つけられて来て、それに損ひませう自分で氣持が悪い。斯う云ふ意味合

ひに於ての一定性習慣が性格に付く、斯う云ふやうな要求が幼稚園に於てぎれ付け出来るか、相當問題であります。この講習會に於きましては皆さんを堅忍持久に養成しようと思ふ譯ではありませぬが、みんなも堅忍持久で、あの戦地に居る人達は明日何時にこの地を出發する云ふ事になれば一聯隊でも一旅團でも大きな部隊がきちつ揃つて生活して居るのであります：：皆さんもよく早くお揃ひ下さいますが：：實を申しますと本年は前の方の席へは遠くからおおいでになりました方のお席をこりまして：：私は成るべくお近く居たいと思ひまして：：前にお坐り願ひました。自然東京の方は一番近いのでありますから：：遠來の客に對する意味なごもありまして：：後の方に席をこつた譯であります。必ずしも遅刻して入り易い場所云ふ意味から後の方にしたのはありません。(笑聲) まあ斯う云ふ講習會はそれ／＼御自身のお考で、今日はあの時間から聴かうごわざ／＼遅くおいでになるのも結構な御判斷であると思ひますが。(笑聲)

其處で小學校のやうに朝きちんとする云ふ事は出来ればしたいと思ひます。けれ共それは決めた以上は崩すことは出来ないものにしなれば一定性か恒常性か云ふ事は出来ませぬから、もう少し外の處でやつたら宜くはないか、譬へばあの幼稚園でこの事變が始まりましたからラヂ

オ體操をやつて居ります。是は皆さんの處ではさうに、或はラヂオ體操のない頃からやつていらつしやる先覺者もあるかと思ひますが、私の處でラヂオ體操をやるようになつて來たのでありますが、私自身の理由を言はして戴きますならば……その理由で始めたのではなく自らさうなつたのでありますが……私は幼稚園で體操をするに云ふ事には餘り賛成しなかつた人間であります。幼稚園は何處までも生活の具體的、實質的のもので教育して行きたいに云ふ心願から形式で工夫された體操に云ふものを持つて來るのは、それが悪いのではないが、一度形式に依つて教育する癖がつく生活の中でやつて行く工夫が鈍りますので、體操に云ふものを成るべく入れなかつた。言ひ代へれば保育具體原理に反するに云ふ譯で入れなかつた。けれどラヂオ體操は矢張り體操でありまして、體操の爲に體操をやつて居る。それを入れたに云ふ事は少しは私も燒がまはつたに云ふかも知れませぬが、私に今自己辯解を言はして戴けば、ラヂオ體操は今日社會的の具體的なものになつて居ります。體操が學校丈けのものであり、然も學校の中の體操の時間丈けのものであり、號令を先生がかけた時のものである事、教育の爲の特殊なる工夫は趣きが違つて居ります。朝起きるに云ふお父さんもやつて居る。お母さんもやつて

居る。お婆さんも儂麻質斯の腰を伸ばしてやつて居る。隣りの空地でもやつて居る。もうあの體操の音が耳に馴れて居る程聴へて居る。さう云ふ社會全體の中にあります時に、それを幼稚園の中でやつても、是は體育の爲に特に時間を設けて工夫された運動動作をするのではなくなると思ひます。父も母も町中の人がする事を幼稚園へさうつこ入れた丈けでありますから、體操であるけれど、社會體操になつたものは教育體操は譯が違ふに云ふ處に私の據り處があります。それなら據らなくとも宜いではないかと思ひますが、自分でさうも氣が濟まなければ出來ない、然しその外に私の處なんかは相當に形式的決りに云ふ事がない保育のやり方があります。保姆さんの頭の苦心を察する事なしにこの幼稚園を見て居りましたら、時の流れに従ふ氣まぐれ保育に云ふ位に御覽になる姿もあるかも知りませぬ。學校の事を決めて置いて頭を樂にするのは餘り難しくない、學校を樂にして置いて先生の頭をきちんと置いて置くのはなかく難しい、子供の方から言へば非常に決りに云ふ習慣をつけられる機會が少い、何か欲しくてたまらぬ。その欲しかつた中で一つは第一日に申上げました問題に關係致しますが、毎朝子供が國旗を掲揚致します。けれど共是はみんな上げて居る譯には行きませぬ。少數の者が毎日上げてまして、みんなさするに朝來るに旗が上つて居るに云ふそ

の決つた感情を養はれる位の事でありませぬ。何かもう少し本當にきちんとしたものが欲しいと思つて居た處へ、今のラヂオ體操があるのでありまして、あのラヂオの一定の時間、何をして居ようが……外の保育原則と矛盾して来るやうであります。……何をして居ようがその仕事になるさうつこ子供が自ら集まるやうな處にまで習慣づけたい。それにはこのラヂオ體操が宜からう。斯う云ふ譯でやつて居るのであります。ラヂオを聴かせる云ふ事をやりましたのも、あの内容を借りて来て保姆の先生が唄はずにラヂオに唄はして、保姆の先生が話をしないでラヂオに話をさせて保姆の先生を樂にさせる云ふ爲ではありませぬ。憚り乍ら放送局でやりますよりは、私達のやります事の方がなれば良いか尊いものであるか判らない位の事は知つて居るのであります。けれ共良い事には一定の時間、一秒も違はず一定の時間に来る。一週に一度、この頃は二時になつて居りますが、この幼児の時間を聴く云ふのはこの恒常性、一定性の習慣をつけるに宜い事であると思ひました。もう一つ働き出す爲にこのラヂオ體操をやつて居るのであります。皆さんにラヂオ體操を是非やれ云ふのではないが、雨が降らうが風が吹かうが、その擔任の先生が休まれようが、その幼稚園の開かれます限り加へられて行く云ふ。一定性の爲に一定性を拵へて、空虚な形式的な感じが少い

ものであるならばさう云ふ事も必要だと思ひます。一定の習慣のついで居る人は何んぞなく散らばらない處があると思ひます。學校から歸へる、外から歸へる、兎に角く親に向つて「唯今」云ふ一口言ふ、唯今云ふ一口は非常な意味合ひを持つて居りますが、その意味合ひの外に、それが一つのコンスタント、習慣であります。多分斯う云ふ子供は大人になりまして、家に歸へつて旦那さんの前に、奥さんの前に手をついて「唯今」云ふ言ひますまいが、きちんとした、だらしないのではない習慣性が一般に瀰蔓して来るかと思ふのであります。何か斯う御記憶を願ひたい、ラヂオ體操は一例であります。何か一定に繰返されて居るものが習慣として出来て来て、それをさうかして止めたらば子供が「先生、今日はないのですか、しないのですか」云ふ程、然もその言ふのは「貴君あれしたいのですが」云ふやうなものではなくして、一定性の性格の一定性さの中にある缺陷を感じて、何んだが其處が飽足らなくてそれを聴くのである云ふやうなものにしたいと思ふのであります。是は一つお考へ願ひたいのであります。

私共、昔から……今日でもさうであります。……身を持つる事に就て考へて居る人は、中には絶間なく身を持つる云ふのできませんして、持して居る事を持して居る感じて居る人もありますが、忙しい云ふは参りませぬが、

朝の三十分は神様の前に坐るごか、朝一時間は本を讀むごか、何んごか一つの一定習慣をつけて居る人が多いやうであります。斯う云ふ事はこの幼稚園の中でも取入れられる事だと思ひます。私の幼稚園は比較的生活形態が自由でありますので特にさう云ふ必要を痛感するご申しましたが、若しもそれに對して私の處ではそんな事を特に考へる必要がない程、全體がきちんとして居るご云ふなら私は疑問を持つのであります。それでは習慣ご云ふ本當のものがつか、幼稚園だからさうされるご云ふものになるか、私は其處に心配がありまして誤解のないように行きたいご思ふのであります。

この三つの事で大體……堅忍持久ご云ふ大きな問題も……人生の初めのあの數ヶ年の處を受持ち得るかご思ふのであります。

日本人はさうも氣まぐれでいけません。是は實に外國を旅行した者の皆知つて居る事であります。非常に氣まぐれであります。氣まぐれであるのみならず氣まぐれである事を何か得意にして居る者もあるのであります。不羈放縱ご言つたやうな事が何か偉さうである。それを何かきちんとして行く國民性に養ふご云ふ事も、是で大體申上げましたので、後は言はないでも、言つて却つて變な事のやうであります。神經の問題であり、意志の問題であり。習

慣の問題であり、性格それ自身の問題であるご考へた時に、一番堅忍持久ご云ふやうな事に影響します根本は聊かお談義してみても相濟みませぬが、その子供の傍に居ります私達の性格問題であります。私達ごは兎に角く幼児に比べて相當の性格要求を人もしますが、自分もして暮して居る私達であります。その私達が非常に才智簡拔で非常に感情が美はしくて何事に於ても申分なく、唯この堅忍持久性の點に於て缺けて居る、ご云ふやうな意味が少しでもあつたごしますれば、今申上げたあらゆる方法を講じましても絶へずその先生の性格的影響は及ぶのであります。私は皆さんに實驗法をお知らせする。皆さんのお受持ちの子供の中に注意散漫性の子供がありましたらお調べ下さいまし、一つは遺傳的理由もありませう。遺傳的理由ご云ふ方から言へば保姆さんの性格が幼兒に遺傳するご云ふやうな事は如何に學問が進んでもありませぬ。さうもあの子供を受持つ事二年、私の性格があの子に遺傳したご云ふやうな事はありませんまい。(笑聲)その方は治療教育學の問題に移しまして専門家を煩はすべきであります。何處か腦の細胞の縮り方がざく／＼して居るのでありませう。叩いてみれば大抵見當がつきますが、音が悪いでせう。(笑聲)是は保育でさうしようご言つてもうまくは行きませぬけれ共、この注意散漫の根氣の弱い、散らばり性の子供を宜く調べてみます

こ、甚だ言ひ悪^{にく}い事ではありますが、そのお父さんかお母さん、或は両者が矢張りさう云ふ風であります。その子供の
お母さんが私共の處へ来て『さうも家の子供は注意散漫で
困ります』と私と五分話して居るこ、は、ア是なる哉、と思
ふ事がある。(笑聲) けれ共、まさかさうは言へませぬが、
恐ろしいものだと思ひます。中には子供の教育に就て父と
母と互ひになすりつこする。父來りていへらく『さうもこの
子の母が』と。母來りていへらく『さうもこの子の父が』と。
(笑聲) さうも遺傳するかさうか判りませぬが、移る事は激
しいのであります。受持ちの先生が親代りにあの時間を子
供と一緒に暮らしていらしつて、その先生の性格が移るに餘
りに崇高深遠なものを持つて居りました『さうして私の偉
い處が子供の方に移らぬか』と言つても移らせ得ないので
あります。けれ共この根氣の問題に就てはさうも移りませぬ。
物が斯うなつて平氣で居る先生の組の子は自ら斯う云ふ事
が平氣になります。コツプが斯うなつて居ても何んでもな
いし聊か趣味性に於てはこでござんすけれ共、これをかぶ
せる時にちやらくくちやツとやらないで、一寸斯うや
る丈けの(コツプの蓋を靜にかぶせる)神經に餘裕のある人
でありますれば斯うやります。やろうと思ふ事をその短い
時間に度省して行く意志の活動をなさる子供、又さう云ふ
先生の組の子供は皆斯う靜にやります。是も物の置き方を

曲げて置かうと思つてお置きになるのなら問題ではありま
せぬ。そんな事はして居られない、忙しくて暑くて、暑く
て忙しくてがらがらツ、是ではさうも子供もさうなつ
てしまふのであります。さうもこの神經と言ひますか、根
氣の問題、意志の問題等は非常に移り易い問題であります。
一體、教育と云ふものはさうかする一寸形式ツぽいも
のであります。本當に自己の意志でやつて居る云ふ、
向ふの爲にやつて居る云ふ事があるのであります。教育
と云ふものにくつ付いて居る嫌や特質として何事も向ふの
爲にやつて居る云ふ事があるものです。さうも自分の家
のものならちやんとお置きになりませうが、さうも教育と
云ふ人の爲にやつて居る材料では、まアその人として氣の
濟まない事でも氣が濟んでおしまひになる傾きがあるので
あります。

私は昨日幼稚園協會の遊戯の講習を拜見して居りまし
た。私のあの『道ぶしんの歌』にあの優美な振付をして下さ
つてお恥しくて、穴が掘つてあつたらば私は入りたい位で
ありました。あれを拜見致しまして、私は原作者として申
すのではありませぬが、傍觀者として痛感した事がある。
『鶴嘴で堀る人』と云ふ處で斯うやつて堀つて居る。お暑か
らうと思ふ程、斯うやつて堀つていらつしやる。私が見て
居るこその鶴嘴は空間をやれくこやつて居る。道路に打

當つて居りませぬ。鶴嘴は工夫がやつて居ります場合に屢々石に打當つて火花が出てかちんこ言つて居る。それを春風を切る云ふか、この邊は多少力が入つて居りますが、私は若い時分に工夫を致しましたのでその邊は實感があります。鶴嘴は打込んだら土の中に入つたのだから斯うやらなければ上らないのであります。それをひよい／＼こやつて居る。是は豆腐の中へ鶴嘴を入れたのであります。(笑聲)それから又、誰方が鶴嘴の先を上げて下さるかこ見て居りましたが、誰方もやつて下さらぬ。あれではお姫様の御勤勞であります。「シャベルですくぶ人」これは少しその意味がそれとは異つて居りますが、シャベルですくぶすくひ方はそれ／＼創作して直し／＼云ふので斯うやつて居りました。一定の型もありました。けれ共中には色々創作していらつしやるが、拜見して居ります。私はもう飛んで歸へつて金盥に水を入れて、事によりましたら目薬を持つて來たいと思ひました。あれでは泥がこんで仕舞ひます。(笑聲)あの泥は何處に堀つていらつしやるのですか、能率心理學から言つて斯うやつたならば斯うやつてやるのが能率であります。又工夫はちやんこやつて居ります。それを元氣にまかせてやつて居る。あれでは續きませぬ。昨日も彼處の角、彼處々々堅忍持久云ふ事になりますね。(笑聲)その鶴嘴を打下して斯うなさいとはあの歌には書いてないの

です。書いてないのですが、鶴嘴を打つ遊戯をしていらしつて、鶴嘴を打つ工夫の生活を考へて居て戴きたい。私は日本全體の、或は世界全體の道普請の工夫に代つて諸姉に恨を申上げる。苦し本當に私があの所作をしますならば、右の肩ミ左の肩ミ力の入れ方が違はなければ背負つて居ることは言へませぬ。若し浦島太郎が細い竹竿で軽々釣に行きます云ふのも、花見踊の花見笠ちら／＼／＼云ふ、あの歌が泣きます。教育云ふものはこんな氣の抜けた事をよくもよくも出来る事なのであります。

御自分できちんこしなければ氣の濟まぬ人でも教育に追はれてきちんこ出来ないでいら／＼する：ハンガリアン狂想曲、ハンガリアン・ラプソディー云ふ良い曲がありますが：私は幼稚園狂想曲、幼稚園ラプソディー云ふものを作つて貰ひたいと思ふのであります。(笑聲)もう少し幼稚園の先生の方が堅忍持久的キャラクターを持たなければ色々の外の方法を講じてもその効果は弱いと思ひます。

今日は是で終る事に致します。